

日本の訓練／検定協力の取組等を少しでも多くの方にご理解いただくために、J-Skills Newsを発行します。

## 「技能五輪アジア大会」 UAEアブダビで初開催

2018年11月27～29日、アジア中東地域を対象とする技能五輪アジア大会（WorldSkills Asia Competition）がUAEアブダビで開催されました。

技能五輪アジア大会は、職業訓練の振興と国際親善を目的として、今回初めて開催されるものです。これまでヨーロッパやASEAN諸国を対象とした地域大会はありましたが、日本を含むアジア諸国全体を対象とした地域大会はありませんでした。

技能五輪アジア大会には20の国・地域から選手が参加し、ジュニア部門も含め23職種で技能を競い合いました。ASEAN地域からはインドネシア、マレーシアが参加し、インドネシアは6個の金メダルを獲得しトップの成績を収めました。マレーシアの他、中華台北、韓国が金メダル3個で続き、開催国のUAEも2個の金メダルを獲得しました。

日本からは業務用ITソフトウェア・ソリューションズとグラフィックデザインの2職種に2名が参加しました。

（厚生労働省）



表彰式



自動車工職種 マレーシア選手



業務用ITソフトウェア・ソリューションズ職種  
日本選手



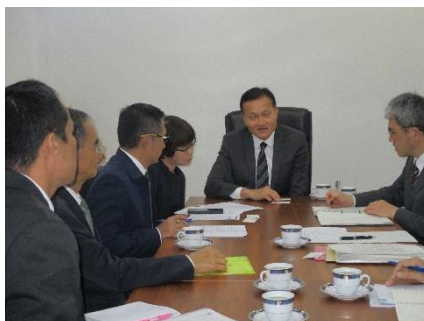
グラフィックデザイン職種 日本選手

## □世界の若者の技能開発に向けたネットワークづくり

日本の厚生労働省は、技能競技大会を活用したネットワークづくりの一環として、11月にブラジル、パラグアイ、コロンビア、イラン、12月にタイ、カンボジアを訪問し、各国のワールドスキルズ加盟組織やそれ以外の技能開発関係者と意見交換を行いました。今後ともエキスパートの交流などの連携を積極的に行っていきます。（厚生労働省）



ブラジル／全国工業連合  
全国工業職業訓練機関



タイ／労働省技能開発局



イラン／技術職業訓練庁



コロンビア／国立職業訓練校



パラグアイ／Mr Eleno Bron



カンボジア／労働・職業訓練省  
職業教育訓練総局 ラオヒム局長

## □研修レポート

### ■カンボジア初の電気系保全3級の技能評価者講習及び技能評価トライアル

2018年12月3日（月）～7日（金）、NTTI（国立高等技術職業訓練校）にて電気系保全3級の技能評価者講習及び技能評価トライアルで実施しました。評価者はNTTI、NPIC（国立カンボジア工科大学）、PPI（プレア・コソマック職業訓練校）、ITI（Industrial Training Institute）、DSC（労働職業訓練省 教育課程基準部）から選抜された講師10名。技能評価トライアル受検者は日系ビルメンテナンスのSOKENカンボジアから3名、NTTI、NPIC、PPIからの4名を加えて7名。講師は、内山博雅氏（公益社団法人日本プラントメンテナンス協会）です。



学科試験のトライアルの様子



実技試験のトライアルの様子

## □ トライアル参加企業の声 (SOKENカンボジア・石川Managing Director)

SOKEN (CAMBODIA)CO.,LTD. は、ビルメンテナンス会社として、2011年に設立、病院や商業施設、工場を中心に業務を行っております。ここ数年、設備管理を主としたエンジニアリング業務に注力しており、3か月に1度、社内試験を実施しております。カンボジアにおいては優秀なエンジニアの採用は困難なため、入社後の教育が極めて重要です。そのエンジニア養成の一環として、SESPP事業の技能評価トライアル（電気系保全）に3名を選抜し、受検させました。受検前に、日々の業務の合間や終業後に各自がトレーニングを行ったことが功を奏し、1名が合格をしました。会社としてエンジニアの技術力向上と意識改革、特に日本のものづくりの考え方や高品質な出来栄を目指しており、今後も我がエンジニアスタッフをSESPP事業の技能評価トライアルに積極的に受検させたいと考えております。このトライアルへの挑戦は自身のスキルアップと意識改革に非常に有効であると存じます。



設立者の大野会長と石川様



エンジニアの学習の様子



空調設備保守点検の様子

### コラム： 機械保全技能士とは？

機械保全技能士は2017年の受検申請者は35,475人と日本で130種類ある技能検定の中でも人気が高い職種のひとつです。

機械保全技能士は製造工場等で稼働している機械のメンテナンスを行います。機械といっても単体を保全するのではなく、工場の生産ラインなど全体の設備保全を行う仕事です。製造工場などでは、どこか1箇所が故障しただけで生産ライン全体がストップしてしまいます。すると企業は大変な損失を被ることになります。そのようなことにならないために、設備機械全体の劣化を予測し、故障を未然に防ぐためのメンテナンス・設備保全を行うのが機械保全技能士の仕事です。

機械保全技能検定試験には、3つの作業区分（機械系保全作業、電気系保全作業、設備診断作業）があります。その中のひとつ「電気系保全作業」の試験では、以下の点を確認します。

#### 1. 学科試験

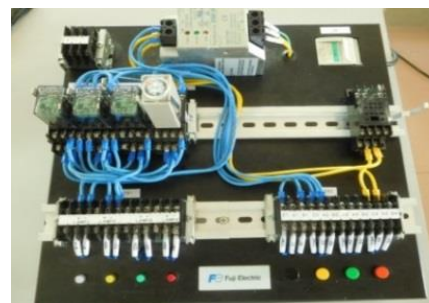
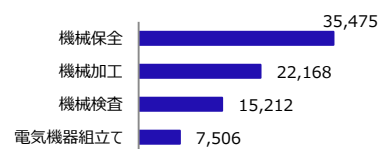
電気の専門知識だけでなく、「機械の保全や管理方法」についても出題し、知識レベルの判定をします。

#### 2. 実技試験 以下についての技能を評価します。

- ・回路図、タイムチャートの理解 ・作業技能と作業方法、作業態度の基本
- ・機械の制御回路の組立（課題1）・機械の電気部分に生ずる欠陥の発見（課題2）
- ・電気および電子計測器の取扱い（課題2）
- ・異常時における対応措置の決定、適切な復元（課題2）

※技能評価トライアルでは、日本の技能検定と同等の水準となるよう日本の専門家が立ち会い指導します。

主なものづくり職種の2017年度  
技能検定受検申請者数



電気系保全作業実技試験用盤

## □ 研修レポート

### ■ ベトナムにおける旋盤3級の技能評価トライアル及び評価者認定

2018年11月13日（火）～16日（金）にホーチミン技術職業短大（HVCT）にて、旋盤3級の技能評価トライアル及び評価者認定を実施しました。評価者はHVCT、ホーチミン市職業短大、サイゴンハイテクパーク訓練センター、ビンロン技術師範大学から選抜された講師8名。技能評価トライアル受検者は丸栄、タカコ、ミツバ、NOKといった日系企業からの10名。講師は、稲川文夫氏（元ハノイ工業大学技能者育成支援プロジェクト・JICAチーフアドバイザー）です。

南部地域（ホーチミン）では2015年6月に初めて旋盤3級の技能評価トライアルが行われ、今年7月に続いて、4回目のトライアルとなりますが、同時に評価者認定（※）も行われ、新たに5名が認定試験にパスをしました。南部地域では、これまでに4名の認定評価者が誕生しており、今回の5名と合わせると9名になります。講師を担当された稲川氏によると、南部地域で旋盤3級の技能検定試験を自立して行えるようにするには、彼等が核となって評価者チームを構成、運営をしていくことが非常に重要である、と将来に期待をされています。



評価者による採点作業の様子



実技試験のトライアルの様子

### ※SESPP事業における評価者認定のための申請要件（認定実施要領からの抜粋）

- ① 一定の職種について、5年以上の実務経験若しくは学識経験を有しているか又は同等以上の能力若しくは経験を有していること。
- ② 技能評価者講習を修了していること。
- ③ 技能評価トライアル等において、技能評価者として技能を評価した経験を2回以上有していること。
- ④ 事業対象国において、職種別、級別を実施する技能評価トライアル等の運営・採点に携わるもの者又は携わることが予定されている者であること。

発行：SESPP事務局（株式会社JTB 霞が関事業部）

### 『J-Skills News』に関するお問合せ

SESPP事務局（株式会社JTB 霞が関事業部）

〒100-6051 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング23階  
 TEL：+81-3-6737-9263 FAX：+81-3-6737-9266  
 担当：安藤・栗原・風見  
 E-mail：[sespp@jtb.com](mailto:sespp@jtb.com)